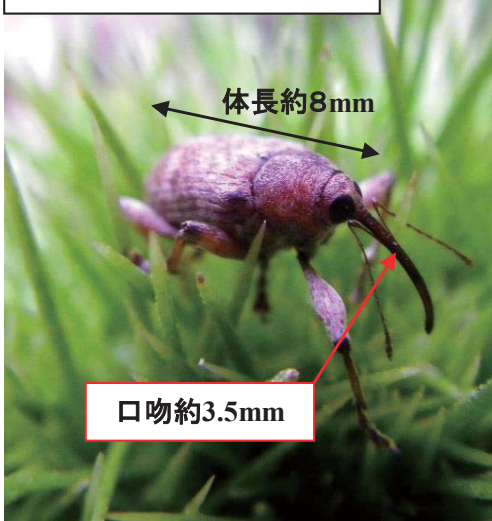


# クリシギゾウムシの生態と防除1

クリシギゾウムシは、成虫がクリ内部に産卵し、幼虫が果肉を食害する。収穫直後の被害果を、外観では選別できないため、被害が大きい。収穫後のヨウ化メチルくん蒸処理の効果が高いが、ここでは、生態等や立木防除の事例を紹介する。

## 形態と被害

写真1 雄成虫



体長約12mm



写真3 被害果から脱出した老熟幼虫



写真2 雌成虫

直径約3mm

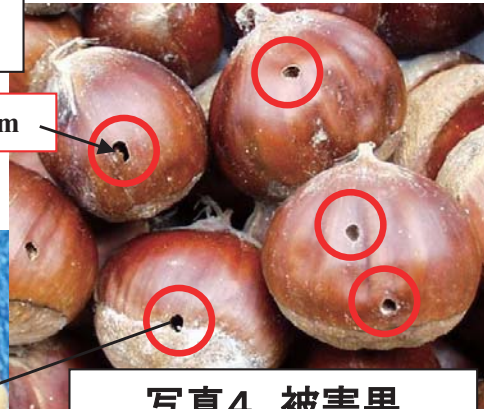


写真4 被害果  
(○は幼虫の脱出孔)

写真5 被害果の内部(切断面)



このように、虫糞を内部に溜め食害する。



## 生態

1. 羽化時期: 8~10月  
(最盛期は9月下旬)
2. 産卵時期: 9~10月  
(最盛期は10月上・中旬)
3. 幼虫脱出時期: 10~12月  
(最盛期は11月上旬)
4. その他: **越冬**は写真3の**老熟幼虫**で、**土中**で行う。通常年1世代であるが、蛹で2年以上経過する個体もいる。

・写真1・2の成虫は、飼育した個体である。自然条件下(稔果上)で、成虫を観察することは非常に稀である。

・逆に、写真3~5のような幼虫や被害果は果実を放置しておけばよく観察できる。

